

## 「沢山の人に助けられた これまでの恩返しをしたい！」



今回お話を伺った  
岡部 美幸さん

平成24年にご入居された岡部 美幸さん（74歳）をご紹介します。

### 献身的に仕えた主人と、突然の別れ

23歳の時にお見合いをし、見初められ結婚しました。主人は一人っ子の我がままで強引な人でした。同居する主人の両親が何か言ってきたり「僕の嫁は、僕の思い通りにする」と言い、間に挟まった私は辛かったです。朝、仕事に行く時は、必ず玄関まで見送り、帰宅時は玄関まで出迎える。付き合いで遅くなっても、私は起きて待っていて、一緒に食事をしないと機嫌が悪くなる人でした。父親は優しくなかったので、全然違いましたが、結婚したら相手の言う通りにしないとイケないと思いい、その通りになりました。自営業で時間があると、全国各地に旅行に連れて行ってくれたのが、唯一思い出です。そんな主人が風邪をひき、呆気なくペニシリンショックで急死したんです。私が30歳の時で、結婚生活は7年間で、子供もいなかったもので、その後

実家に戻りました。

### 花嫁さんを最高に演出する仕事との出会い

何か仕事を始めようと思いい、巡り合ったのがホテルの結婚式場の衣装部でした。あのお嬢様には、こんな柄が似合う。このお嬢様には、こっちの柄の方が似合うと、その方々を思い浮かべながら選ぶのが楽しかったです。そしてその衣装を着てもらおうと、本当に良くお見合いになってね！そんな時は自分の見立てに満足しました。そしてご本人様や親御様からお礼を言われるとこの仕事をやっていて本当に良かったと嬉しくなりました。そのホテルは長年ご親族で利用して下さっている方々も多く、私の名前や顔を覚えて下さって、声を掛けていただくことも多々あり励みにもなりました。当時はバブル期の絶頂期で、お客様のご要望なら、どんな高価な着物でもご用意出来た凄いい時代でしたよ。生まれて初めてした仕事ですが、今思い返せば本当に良い時代にやり甲斐のある仕事をさせていただきました。

### 私を必要としてくれるのが嬉しい

定年後はスイミングを始めました。幼い頃から体が弱く泳いだことがなかったのですが、近所の人に誘われ行っ

てみたんです。この時、初めて水着を着、泳ぎを一から習い泳げるようになりました。泳いだ後は凄いい気持ちが良いんですよ。お蔭様で年中風邪もひかなくなり、体にも合っているようです。監視員のボランティアもその頃から始めました。急に欠勤者があると「出勤してほしい。」と電話が掛かることも度々。「こんな私で役に立つなら・・・」と大慌てで出掛けて行きます。

もう一つは、大阪城ホールである「万人の第九」に毎年参加しています。知人から誘われたのがキツカケで、指揮者の佐渡裕さんに会えるのを毎年楽しみにしています。大らかで温かく、とても素敵な方です。練習に行く仲間にも会えますし、気持ち良く大きな声も出せます。第九を通じて大勢の友人ができました。本番が終わると寂しい気持ちで一杯ですが「また次も参加しよう」と、心はもう来年に飛んでいます。



第九の仲間たちとハイチーズ  
(前列中央が 岡部さん)

「私から働くことを取ったら何も残らないのよ！」とハニカミ笑顔で語る岡部さん。まだまだお呼びが掛かりそうです。これからも頑張ってください。